



ロータリーのリーダーシップと最新の経営理論タイトル

ロータリーの「中核的価値観」の1つに「リーダーシップ」が「戦略計画」と共に掲げられて久しい。しかし、その意味について共通の理解があるのであろうか。人によって「リーダー」や「リーダーシップ」についてのイメージや意味するところが違うのは当然として、時代の変遷によってそのありように変化があり、新たに求められるものがあるもおかしくない。一昔前は「カリスマ的リーダー」が典型的なリーダー像であったように思う。「秀でた特殊な能力や専門的知識などの個人的魅力」で影響力を発揮するタイプである。その場合は大抵「リーダー→フォロワー(部下)」という垂直的な縦の関係がある。ところで、ロータリーにおいてその垂直的なリーダーシップのみで良いのであろうか。

時にそのようなリーダーシップも必要であろうが、優れた経営者や専門職が集うロータリーにおいて様々な役割や場面に応じて、一人ひとりがやはりリーダーなのである。近年、リーダーシップについて、経営学で主流となってきた理論に「シェアード・リーダーシップ」(SL)という考え方がある。「グループの複数の人間、時には全員がリーダーシップを執る」とする考え方だ。水平関係のリーダーシップということができる。これからの不確実性の時代のリーダーシップ論としてこの理論が注目されているようだ。

ロータリーにおいて、1人ひとりがリーダーであるならば、当然1人ひとりに「ビジョン(軸)」が求められる。地区やクラブのビジョンもさることながら「自分のビジョンは何か」、「自分は何者で、何をしたいのか」がすべてのロータリアンに求められる。何故なら、どのような団体であっても個人の集合体に他ならないからだ。近年の実証研究では、「従来型の垂直的リーダーシップよりも、SLの方がチーム成果を高める」とい結果が多く示されている。SLにおいて重要なのは十分な「対話(ダイアログ)」である。対話によって個々人の「知」が活かされる。「新しい知は既知の知と既知の知の新しい組み合わせ」から生まれる。

近年の経営理論におけるリーダーシップの定義は「グループ内のある人が他のメンバーのモチベーション・能力を修正する時、それをリーダーシップという」である。「修正する時」とは、あくまで心理的に「他者に変化をもたらす」ことを指す。この場合リーダーとは「変化」を与える人、すなわち他者に「影響力」を与えることを指す。

「私たちは世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています」。ロータリーの新しい「ビジョン声明」である。いま正に私たちは「持続可能な良い変化をもたらす」ために個人としての「ビジョン(軸)」をしっかりと持ち、「リーダーシップ」を発揮しなければならない。

第2地域ロータリー公共イメージコーディネーター 柳生 好春(野々市RC)

※ 早稲田大学大学院教授 入山章栄著「世界標準の経営理論」に大きく依った。

COVID-19による「緊急事態宣言」のなかで思うこと

ロータリー年度末を迎えるにあたり、ロータリーを前進させるための各地でのご尽力に、心より感謝申し上げます。新型コロナウイルスが蔓延するなか、ロータリークラブの活動や事業活動に懸命に取り組んでおられる皆様に心からのお見舞いと敬意を表します。前途多難な社会状況ですが、閉塞感打破に向け、共に頑張りたいと思います。

新型コロナウイルスはいつ、誰が感染してもおかしくない中で、自らが罹らないこと、そして不運にも感染した時は、他の人達にうつさないようにすることが、ロータリアンとしての社会的責任でしょう。

政府の緊急事態宣言により、外出を極力控えるように強く要請され、在宅ストレスがたまっていると思います。ストレスの発散方法や免疫力アップに効果がある食材等の情報が数多く発信されていますので、参考にして遊び心を忘れずに「離れて繋がる」ことを心がけましょう。

3月以降、ロータリーはクラブ・地区ともに例会・行事・セミナーや奉仕活動などを中止・延期されたと思います。一方でこの間に、ビデオ・インターネット・WEB等を使用した、これまでと違った方法で開催された活動も多くあるのではないのでしょうか。ご苦労はあったでしょうが、今後のクラブや地区の運営に活かされることでしょう。

日本は災害列島と言われ、毎年のように自然災害が発生します。その上に今回のパンデミックが起きました。

ウィルス性感染症は20世紀に8回(1918年のスペイン風邪では、世界中で多くの死者が出ました。)、21世紀に入りすでに3回も発生し、努力と知恵によって克服してきました。

各種ある危機の中で、最も死者が多いのがウィルス性感染症です。

人は平常に戻ると、すぐに忘れるものです。目の前の敵と闘いながら、風化しないうちにこの経験を活かし「次に備える」ことが重要です。

ウィルス性感染症は不幸なことにこれからも必ず発生するでしょう。

今回の新型コロナウイルスも、必ず克服し、「次への備え」によって、社会の発展に繋がることと、確信しています。

人が集まって行う奉仕活動がほとんど不可能な中でも、ロータリアンとロータリークラブができることは多くあります。草の根的な活動ですが、コロナと闘っておられる人達にエールをおくったり、困っている人達に支援の手を差し伸べたりすることはできるでしょう。

インターネットやWEB等を使った動画の発信によって、人々を「ワクワクドキドキ」させ、感動と希望を与えることができます。また、自らとロータリーファミリーが実施している素晴らしい奉仕活動を、家族・友人・知人に話すことやクラブや地区のホームページとMy ROTARYに投稿することができます。

周囲の人達にロータリーの奉仕活動を示し、語ることによって、ロータリーファミリーの絆を深め、公共イメージ向上にも繋がることとなります。

「ひとりひとりが広報マン」を心がけましょう。

第3地域 ロータリー公共イメージコーディネーター補佐 片山 勉(大阪東RC)



戦略計画についてのアンケート結果

第3地域におきましては2019年に引き続き、現ガバナーエレクト(‘20～’21年度DG)にお願いし“戦略計画についてのアンケート”を行いました。今年は第1地域、第2地域でもほぼ同様のアンケートを行いました。新型コロナウイルス感染拡大によりロータリー各種会合が延期、或いは中止となり、皆様方にアンケート結果をご報告する機会がございませんが、近い将来人間の英知、ロータリアンの結束力でコロナ禍を克服した暁には、日本の34地区・全国のクラブの“戦略計画に対する取り組みの現状”を皆様方にお示しできるものと思います。

2019年では11地区中1地区に地区戦略計画委員会(地区ビジョン委員会)の設立がありませんでしたが、2020年では全ての地区に設立されていました。しかし、3地区では未活動との返答を戴きました。地区ビジョン、或いは地区中期目標を策定している地区は7/11(2019年5/11)、検討中は3/11(2019年2/11)、未決定は1/11(2019年3/11)と多くの地区でそのビジョンを掲げ活動をされています。地区ビジョンの必要性が浸透してきている結果であると推察できます。

クラブ戦略計画(ビジョン)委員会設置については、最も多い地区は82.5%、次いで78.1%、73.8%、69.3%、50%、39.4%、25.4%、16%の順でした。残る3地区は設置をしているクラブもあるが実態を把握していない、との回答でした。昨年未確認の地区が2地区ありましたが、今回は3地区となっています。先にパーセンテージを示した8地区は全ての地区でクラブ内での委員会設置数が増えています。

地区内各クラブはクラブのビジョン、或いは中長期目標を決めているか?との問いについては、それぞれの地区内クラブで85%、47%、40%、37%、36%、31%、7%、3%の割でクラブの進むべき方向を決め、活動をされています。各クラブでのご努力に感謝を申し上げます。この項では、昨年より方針を策定しているクラブが減っている地区が見受けられます。

ロータリーの単年度制から脱却し、持続性を持ったクラブ運営を行うために、是非クラブ内で再討議をして戴きたく存じます。なお、3地区が未確認との回答でした。

国際ロータリーが地区・クラブの活性化のために、2002年にDLP(地区リーダーシッププラン)を、2004年にはCLP(クラブリーダーシッププラン)を推奨致しました。その後、2007年にStrategic Plan(長期計画)、2010年にはStrategic Plan(戦略計画)を打ち出し地区・クラブの活性化・会員増強を持続的に推進するように働きかけました。また、ロータリークラブの特性である単年度制を考慮しつつ、持続性のある即ち数年後を見据えた地区・クラブの目標・ビジョン・活動計画を考えることを推奨しました。

今回の結果から、地区、そして多くのクラブにおいて、それぞれのビジョン或いは戦略計画を立案し、実践することの必要性・重要性を認識されつつある、と考えられます。

地区・クラブ戦略計画(ビジョン)委員会を有用に活用され、地区・クラブの活性化・会員基盤向上・会員増強にご努力されることをお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染もやや衰えを見せつつありますが、第2波・第3波の襲来が必至と思われます。油断をせず感染予防に万全の措置を執りながらロータリー活動を続けられますことを祈念申し上げます。